

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 6月号

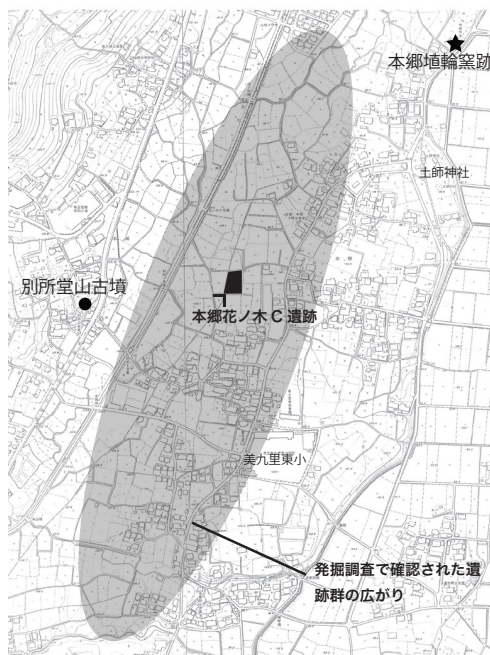


### 今月の発掘 NOW!

笹川沿岸地区遺跡群の発掘調査が始まり、1ヶ月がたちました。まだまだ発掘調査は序盤ですが、いくつかの成果が上がっています。

現在は本郷花ノ木C遺跡ほんごうはなのきの調査を行っていますが、この遺跡は平成28年度に調査した場所と違い、古墳時代ではなく奈良・平安時代という古墳時代より新しい時期の集落が中心となっていることがわかりました。

古墳時代の初めから奈良・平安時代にかけての人が住み続けていたことが徐々に明らかになってきています。



調査の風景



古墳時代住居跡出土の土器（左写真）とここから見つかった石製のビーズ（右写真）



5月中の調査で最も大きな発見は、調査区の西側で1軒だけ見つかった古墳時代中期の住居跡です。この住居の床面からは壺つぼや高坏たかつきなど多くの土器が出土しました。さらに住居内の土坑どこうから完形の壺とともに、蛇紋岩じゃもんがんという緑色の石で作った小さいビーズが20個ほど見つかりました。

### 笹川沿岸の風景

#### ☆ 集落から見える古墳 ☆

遺跡から西に目を向けると庚申山が見えますが、遺跡からよく見える中腹に別所堂山古墳べっしょどうやまこふんという前方後円墳が残されています。

古墳時代後期（6世紀）の古墳ですが、土師神社周辺にある古墳群と異なり、自然の丘陵上の高い場所に作られており、本郷花ノ木C遺跡から見ると丘陵全体が古墳にみえます。これは実物より巨大に見せようと視覚的な効果を考えて作られたと思われます。古墳は支配者層のお墓しはいしやそうですので、この古墳に関しては古墳時代の人々が住む集落からよく見える場所に古墳を作ること、自らの権力を誇示していたのでしょう。

このような古墳と集落との視点から周辺の風景を見渡すと、本郷花ノ木遺跡に暮らしていた人々が何を見ていたのかを復元することが出来るでしょう。



遺跡から見える別所堂山古墳

### 考古学豆知識

#### ☆ 遺跡の命名方法 ☆

遺跡の名前はどのようにつけるのでしょうか。藤岡市では2つのルールで遺跡名を付けています。

まず地区の大字・小字を遺跡名としてつけること。そして、その地区に他に遺跡があった場合、同じ遺跡で地点が違えば大文字のアルファベットを、違う遺跡である場合はローマ数字（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ・・・）を付けます。今、笹川沿岸地区の土地改良事業で調査している遺跡は「本郷花ノ木C遺跡・D遺跡」です。藤岡市本郷の小字花ノ木にある遺跡であること、前に調査された「本郷花ノ木A遺跡」「本郷花ノ木B遺跡」とは、調査地点は異なりますがほぼ同じ時期の遺跡であることからこれらの遺跡名がつけられました。

笹川沿岸発掘ニュース 6月号

平成29年5月25日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-22-5997

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 7月号



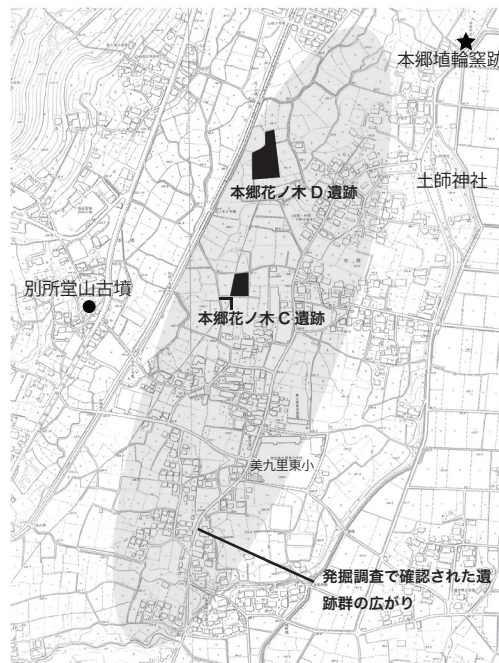
### 今月の発掘 NOW!

早いもので発掘が始まって2ヶ月が経ち、夏らしい季節になってきました。

5月下旬からは発掘調査を行う人員を増員して、本郷花ノ木D遺跡の調査に着手しました。この調査箇所が今回の発掘調査区でもっとも広い場所になります。

発掘が始まると調査区内にどのくらいの遺構（住居跡など）があるかをまず確認しますが、本郷花ノ木C遺跡では約80軒、D遺跡では100軒を超える住居跡が確認されています。

今月号では、本郷花ノ木D遺跡の古墳時代住居から出土した珍しい土器を紹介したいと思います。この土器は古墳時代に使われた土師器と呼ばれる素焼きの土器で、<sup>つき</sup>坏という種類の器です。坏は本来丸い形をしていますが、発見されたものは舟形をした珍しい形をしたものでした。この土器がどのような目的で作られ、使われていたかはわかりませんが、特殊な目的で作られたものだと言えるでしょう。



出土した住居跡（左写真）と床面から見つかった舟形の土師器坏（右写真）

### 本郷埴輪窯跡の話（前編）

#### ☆ 本郷埴輪窯跡の発見 ☆

本郷埴輪窯跡を発見したのは、東京帝国大学の柴田常恵<sup>しばたじょうえ</sup>という考古学者です。柴田は明治39年春、藤岡市に來訪した際、道路の崖際に露出していた現在の本郷埴輪窯跡を発見しました。この発見を「埴輪の製造<sup>せいぞうし</sup>址」という論文にまとめ、本郷埴輪窯跡が世の中に広く知られるようになりました。なお、この論文は日本で初めて埴輪窯跡について書かれた論文であり、本郷埴輪窯跡は日本で最初に発見された埴輪窯跡となります。また柴田は、藤岡市藤岡にある諏訪神社古墳の発掘調査も同じ年に実施しており、その遺物は現在、東京大学に収蔵されています。

現在、本郷埴輪窯跡には「埴輪製造之竈址」という碑が建立されていますが、柴田常恵の発見を契機に建立され現在まで大切に受け継がれています。



「埴輪製造之竈址」の碑

### 考古学豆知識

#### ☆ 発掘調査の手順 ☆

調査箇所が決まり、遺跡名が決まるといよいよ発掘調査がはじまります。

発掘調査ではまず、表土掘削といって地面から遺跡の出る深さまで掘り下げます。昔の発掘調査では人力で、スコップなどを使って大変な思いをして掘り下げていましたが、現代ではいわゆるショベルカーのような重機を使い遺跡がある高さまで掘り下げるのがほとんどです。笹川沿岸地区遺跡群でも重機で表土掘削を行い、その後で人力による遺構掘削に移行しています。

笹川沿岸発掘ニュース 7月号

平成29年6月23日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-22-5997

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 8月号

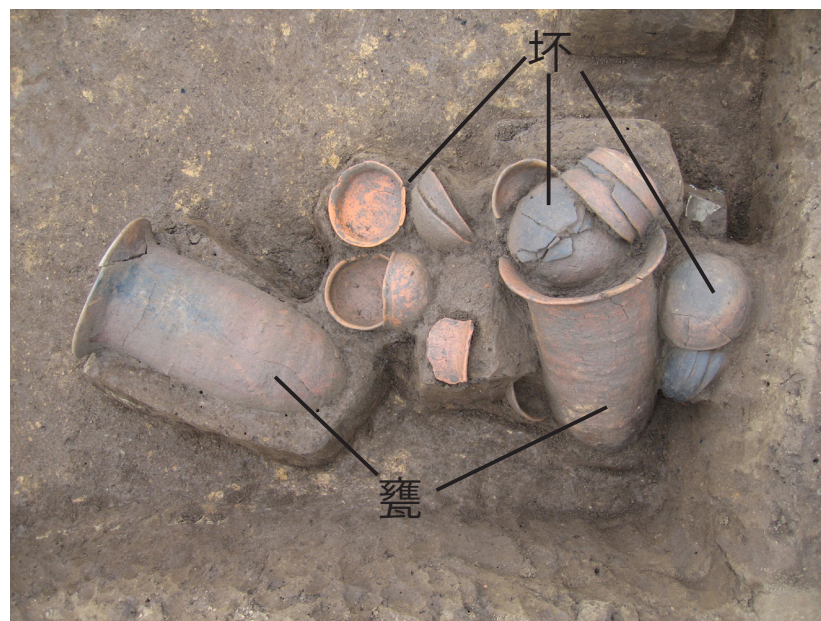
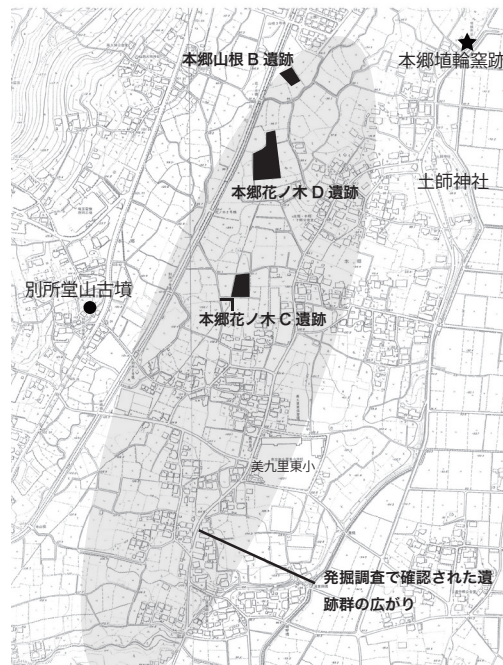


### 今月の発掘 NOW!

7月中旬に本郷山根B遺跡の調査に着手しました。これで当面の調査予定箇所に全て手をつけた事になります。本郷山根B遺跡では40軒程度の住居跡が確認され、古墳時代の集落が広範囲に渡って広がっている事が改めて確認されました。

7月の発掘調査でも遺跡から様々なものが発見されています。写真の本郷花ノ木C遺跡から見つかった古墳時代の「土器集積遺構」又は「器物集積遺構」と呼ばれるものです。これは使われなくなっ

た竪穴住居内に完全な形の土器（今回は土師器の坏と甕）を種類ごとに規則的にまとめて置いた遺構です。これらの土器は住居がある程度埋まった段階で置かれていた事が発掘で確認されていて、生活に使っていた土器ではありません。このような「土器集積遺構」は集落内で行われた土器を使った祭祀の痕跡と考えられています。今回見つかったものは小規模なものですが、大規模な「土器集積遺構」だと2000個体以上の土器が規則的に置かれているのが発見されています。



本郷花ノ木C遺跡から見つかった土器集積遺構

### 本郷埴輪窯跡の話（中編）

☆ 本郷埴輪窯跡の発掘 ☆

柴田常恵<sup>しばたじょうえ</sup>によって発見された本郷埴輪窯跡は、発見から38年後の昭和18年（1943）と昭和19年（1944）に群馬県師範学校（現：群馬大学）の尾崎喜左雄<sup>おざききさお</sup>教授によって発掘調査が実施されました。尾崎は群馬県の古墳時代研究に大きな足跡を残した研究者ですが、本郷埴輪窯跡の発掘が、尾崎が群馬県で実施した初めての発掘調査になります。

発掘調査では、柴田が発見した埴輪窯跡の北50mほどの箇所から、2基の埴輪窯跡が発見され、内1基が現在でも現地に保存されています。窯跡は神流川<sup>かまあと</sup>に形成された河岸段丘の崖際に作られています。この崖際には見つかった窯跡以外にも30～40基の窯跡があると考えられています。

本郷埴輪窯跡は、群馬県内の古墳に沢山の埴輪を供給していた一大生産地でした。



尾崎喜左雄調査地点と保存されている埴輪窯跡

### 考古学豆知識

☆ 発掘調査の手順② ☆

重機による表土掘削がおわると、続いてプラン確認とよばれる作業に移ります。鋤簾<sup>じょれん</sup>という鍬<sup>くわ</sup>に似た道具で確認面の表面を丁寧に薄く削り取っていくと、住居や土坑といった遺構<sup>いこう</sup>の形が徐々に見えてきます。遺構の状況を確認し、調査の方向性や今後の計画を決める作業がプラン確認です。前回登場した重機での表土掘削とこのプラン確認は、発掘調査の全仕事量を左右する仕事です。「真剣勝負だ」という調査者もありますが、調査の担当者が最も緊張して行う仕事です。

笹川沿岸発掘ニュース 8月号

平成29年7月18日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-23-5997

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 9月号



### 今月の発掘 NOW!

5 月後半から始まった本郷花ノ木 D 遺跡は想定されていた竪穴住居 100 軒のうち 40 軒くらいの調査が進んでいます。古墳時代後期の住居が一番多く確認され、奈良・平安時代の住居も確認できました。

今月号は古墳時代の土器について紹介したいと思います。古墳時代の土器は大きく「土師器」と「須恵器」の 2 種類があります。「土師器」は弥生土器の系統をひく古墳時代から平安時代まで使われた赤褐色の素焼き土器を言います。土師器という言葉は『延喜式』の「土師器」（はじのうつ

わもの）にあてて用いられた用語です。「須恵器」とは青灰色をし、固く焼き締まった土器で、古墳時代中期（5 世紀初頭）に朝鮮半島から伝わった登り窯や轆轤を用いてつくられたものです。

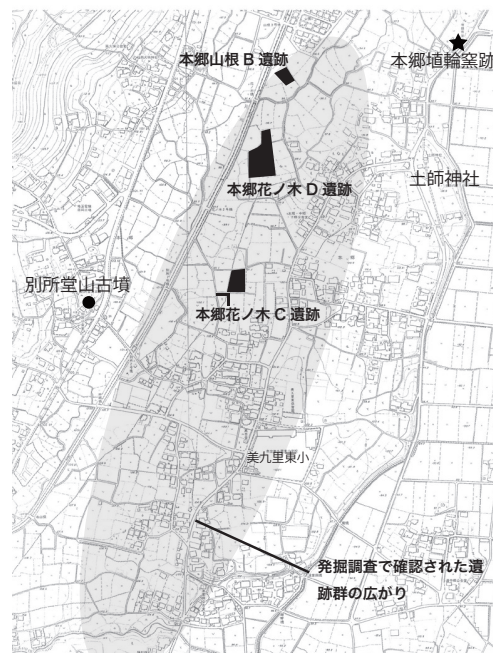
それまで日本では縄文・弥生土器の伝統をひく素焼きの土師器しかありませんでした。須恵器は土師器と比べて丈夫で水が漏れにくい特徴がありますが、直接火があたると割れやすくなるため、貯蔵や食器に多く利用されました。一方、土師器は火が通っても割れにくかったため、煮炊きに用いられました。



本郷花ノ木 D 遺跡出土 須恵器蓋



H-29 号住居貯蔵穴 土師器出土状況



### 本郷埴輪窯跡の話（後編）

#### ☆ 埴輪作りの集団 土師部 ☆

本郷埴輪窯跡を発掘した尾崎喜左雄は著書である『古墳のはなし』の中で、本郷地区の昔の呼び名である土師郷という地名や、『日本書紀』で埴輪を作ったとされる野見宿禰を祀った土師神社、そしてそのすぐ近くある本郷埴輪窯跡の存在から、土師神社を中心とした本郷地区に埴輪作りを担っていた土師部が住んでいたと考えました。そして埴輪作り集団である土師部の名称から土師郷という呼び名がつけられたと推測しています。

現在、本郷埴輪窯跡の南西で発掘調査を行なっていますが、本郷埴輪窯跡と同じ時期の大集落が発見されました。今、発掘しているこの遺跡が土師部が住んでいたムラであった可能性が高いと言えます。



### 発掘体験実施！

8 月 22・23 日、学童保育所に通う美九里東小学校の生徒を対象に発掘体験を行いました。26 人の生徒の皆さんが参加してくれました。発掘体験では、考古学や古墳時代についての説明を聞いた後、実際に古墳時代の住居を発掘しました。土器を発見するたびに歓声が上がっていました。この体験を通じて、ごく身近に遺跡があるということを体験できたと思います。

皆さん、暑い中ご参加ありがとうございました。



笹川沿岸発掘ニュース 9月号

平成 29 年 8 月 28 日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)

TEL:0274-23-5997

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 10月号



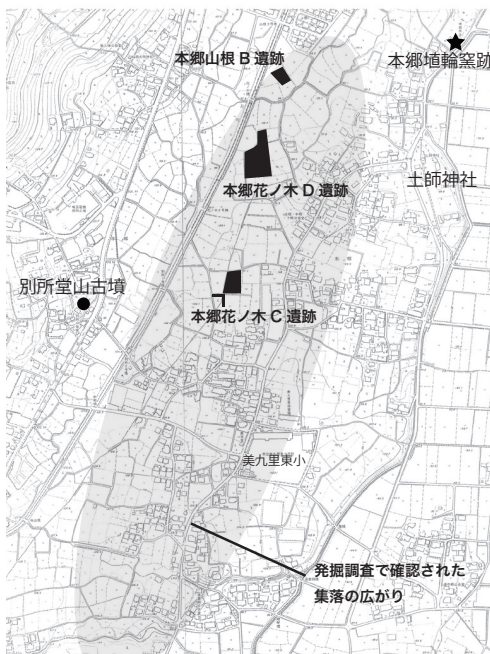
### 今月の発掘 NOW!

現在、本郷花ノ木 C 遺跡・本郷花ノ木 D 遺跡・本郷山根 B 遺跡 B 区の発掘が同時に進められており、調査した住居跡は 250 軒ほどに達しました。

古墳時代中期～平安時代前半(約 1,500 ～ 1,000 年前)にわたる遺跡が見つっていますが、住居跡に据え付けられるカマドにもさまざまなものが見られるようになりました。

カマドは、現在のガスコンロが普及する前まで使われていたものと変わりませんが、当時は半地下式である<sup>たてあなじゅうきよ</sup>竪穴住居の壁面に、粘土などを用いて<sup>つく</sup>造り付けられていました。粘土により壁(袖部)と天井部を薪などを燃やす燃焼部を囲むように作り、天井部に胴が長い<sup>かめ</sup>甕(深鍋)を固定します。また屋根の外側まで延びる煙出しのトンネル(煙道)<sup>えんどう</sup>が掘りぬかれます。

カマドは古墳時代中期に朝鮮半島から伝わったとされますが、時代とともに変化していきます。最初は住居の内側に<sup>ねんしょうぶ</sup>燃焼部を作っていましたが、住居の壁から外側に張り出すようになります。天井や壁に<sup>しんざい</sup>芯材として石や土器を使うものも現れますが、調査では、細長い甕を使ったものが多く見つかりました。



### 藤岡産埴輪って??

藤岡市には本郷埴輪窯跡<sup>ほんごうはにわかまあと</sup>と白石にある猿田埴輪窯跡<sup>さるたはにわかまあと</sup>という二箇所の埴輪窯跡が見つっています。これらの窯跡で焼かれた埴輪は藤岡産埴輪と呼ばれていますが、他の地域の埴輪とどんな違いがあるのでしょうか？実は埴輪の元となる粘土に秘密があります。

藤岡で取れる粘土の中には、三波石の名で知られる<sup>けっしょうへんがん</sup>結晶片岩という岩石と<sup>かいめんこっしん</sup>海綿骨針という海綿の化石が含まれます。海綿骨針は海綿の骨組織が化石として残ったもので、焼くと白い針のように浮かび上がります。これらは藤岡市を始めとした西南毛の地質に存在し、埴輪を作る粘土に含まれていて、この2つが埴輪に認められれば藤岡の窯跡で焼かれた埴輪であると判断しています。

このような特徴から各地の古墳から出土した埴輪を調べると群馬県内だけでなく、埼玉県にも藤岡産埴輪が供給されていたことがわかっています。



神田出土の藤岡産埴輪

### 考古学豆知識

#### 「発掘調査の手順③」

住居などの形が確認できると、いよいよ手掘りによる調査がはじまります。いわばメインの仕事ですが、<sup>どそう</sup>土層を確認しながら、また、重要な遺物が見つかった場所から動かないよう注意しなければなりません。そのため、<sup>いしよく</sup>移植ゴテなどの小型の道具を使い、丁寧に手早く掘っていくことになります。

根気のいる仕事ですが、何百年何千年前の土器や石器を自分が初めて掘り出し、発見するということは、他では味わえない体験だと思います。



H-35 号住居カマド 焚口袖部に土器を使う例



H-15 号住居カマド 焚口天井に土器を使う例

笹川沿岸発掘ニュース 10月号

平成 29 年 9 月 26 日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)

TEL:0274-23-5997

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 11月号

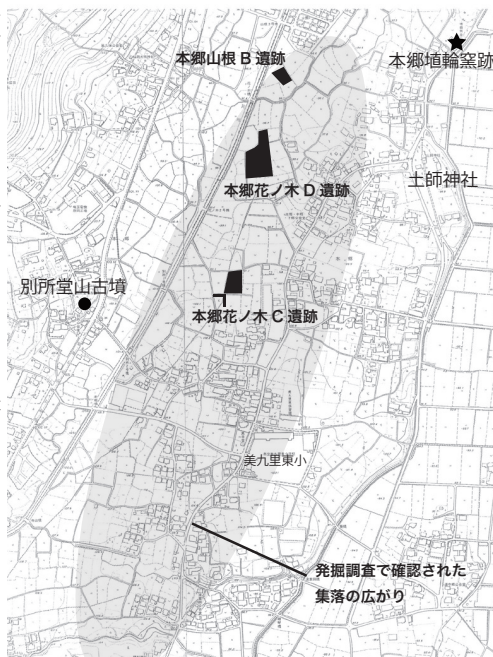


### 今月の発掘 NOW!

10月には、右の地図の3箇所で行われていた遺跡の調査が順次終了していく予定です。これらの成果から、古墳時代中期～平安時代前半（約1,000～1,500年前）の集落跡と、武士が活躍した室町時代（約400～700年前）の屋敷跡が点在する様子など分かってきました。

本郷山根B遺跡B区では、古墳時代後期～平安時代前半の住居跡が30軒ほど見つかりました。これは昭和62年に笹川改修工事に伴って調査された遺跡と同一のものと思われます。住居群は微高地上の旧笹川側に偏っていて、水田があった低地を臨む場所に作られていました。集落跡は笹川沿岸を開拓し、耕作地帯を作ってきた人々のもので、その動向を調べることで現在の水田や畑作地帯がどうやって作られたかを解明できるでしょう。

室町時代の深い溝や井戸も見付かりました。溝は屋敷を取り囲むもので、人が侵入できないように出入り口部分を残して深く掘り込まれています。溝による区画の内側では多くの柱穴が見つかり、たくさんの掘立柱建物が築かれ、武士による領地経営の拠点になっていたと思われます。



本郷山根B遺跡B区 全景



見つかった室町時代の屋敷を囲む溝

## 古代の土木構築物 ― 古 墳 ―

群馬県が行なった最新の調査では、群馬県内に13,249基、藤岡市には1,511基の古墳が確認されています。本郷地区でも沢山の古墳が残っていますが、作られた当時の古墳の姿を思い浮かべることができる人は少ないと思います。

古墳は古墳時代の豪族の墓です。現在見ることのできる古墳は、土が被っててただの土山のようなのですが、その構築には古墳時代の技術が結集されていました。古墳の表面を覆う土をどけると葺石という古墳を覆う石垣があり、また古墳を盛り上げる土もただ盛り上げているのではなく、種類が違う土を交互に盛り固めながら構築している様子が発掘すると観察できます。



表面の土を取った状態の古墳

古墳は1000年以上前に作られたものですが、このように入念に作っているからこそ現在でも崩れずにその多くが地上に残っています。古墳がこうして地上に残っているのは奇跡的なことと言えるでしょう。古墳は日本国内で地上に残っている数少ない土木構築物と言えます。



古墳の葺石と土盛り 断面

## 考古学豆知識

### 「発掘調査の手順④」

発掘調査を進めていくと、竪穴住居跡の床面近くで形のわかる状態の遺物が見つかったり、竪穴住居が使われていた当時貴重だった遺物が見つかることがあります。このような遺物が見つかった時は、竹ベラやハケを使って丁寧に周りの土を取り除いていくことになります。遺物がどこからどのように出土したかの情報がもっとも重要で、こうした遺物によって竪穴住居の時代や、土器などがどのように使われたのかがわかることがあります。

笹川沿岸発掘ニュース 11月号

平成29年10月25日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-23-5997

## 回 覧

# 笹川沿岸発掘ニュース 12月号



### 今月の発掘 NOW!

季節外れの台風がくるなど、当初の予定より若干遅れてしまいましたが、5月から行っていた本郷花ノ木D遺跡の発掘調査が11月上旬に無事に終わりました。これで平成29年度工区の調査は全て完了となります。

11月21日から来年度予定されていた古墳の調査に先行して取り掛かりました。この古墳は本郷埴輪窯跡のすぐ西側にあり、直径10m程度の円墳です。今年度は6基ある古墳の内、4基の調査を実施する計画です。

まだ調査が始まったばかりでわかってことは少ないですが、これらの古墳は6世紀のもので横穴式石室を持つ古墳であることが明らかとなりました。さらに古墳の周囲には葺石と呼ばれる石垣が良好な状態で残っているのが確認されています。

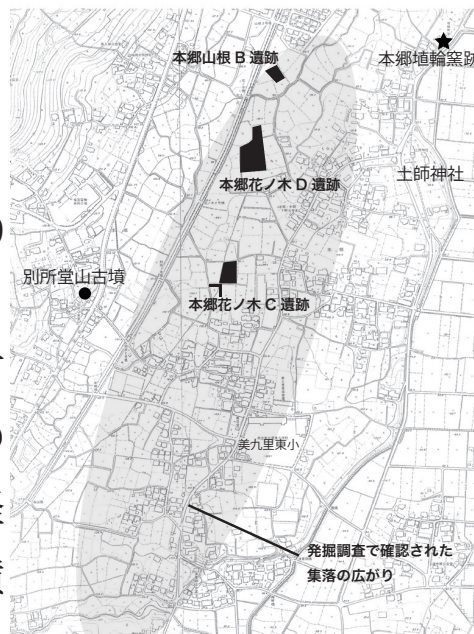
今後、調査が進展するにつれ様々な発見があると思います。明らかにしたことは、「笹川沿岸発掘ニュース」で順次紹介していきます。ご期待ください。



見つかった古墳の葺石



調査している横穴式石室



## 古墳「群」研究の始まり

藤岡市には数多くの古墳が存在していますが、古墳1基だけで存在しているものは少なく、ほとんどの古墳は数基～数百基の単位で群集して作られ、「古墳群」を形成しています。これは今の墓地などが、ある区画にまとまっていることと同じで、古墳時代も決められた場所に古墳を作っていました。

このような古墳を、「群」で捉える視点は、昭和8年に藤岡市しろいしいなりやまこふん白石稻荷山古墳の調査に来訪した東京帝室博物館 後藤守一教授によって初めて実践されました。後藤教授は、白石稻荷山古墳だけでなく周辺の古墳も調査し、古墳を「古墳群」として捉え、その成果を報告書にまとめました。古墳の石室や副葬品、埴輪といった研究が中心だった当時としては異例の考えといって良いでしょう。

現在では、古墳を群として捉える考え方は一般的ですが、その最初の研究対象地となったのが、藤岡であったことはあまり知られていません。



藤岡市白石稻荷山古墳遠景

5世紀前半に作られた前方後円墳  
墳丘の大きさは約140m

## 考古学豆知識

遺構が掘りあがってくると、今度はこれを記録する作業となります。発掘調査では、写真撮影や測量が主な記録の方法となります。

写真撮影は、遺構を映像として記録するほとんど唯一の手段です。どんな遺構が出たか最も理解できるように、撮影の位置取りに気を付けるとともに光線の状況を入念に確認しなければなりません。神経を使う仕事となります。

笹川沿岸発掘ニュース 12月号

平成29年11月27日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石1291-1(藤岡歴史館内)

TEL:0274-23-5997

A photograph showing a terracotta head of a deity, likely a Buddha, partially buried in dark, moist soil. The head is reddish-brown and has a serene expression. It is surrounded by several broken red bricks and some light-colored stones. The scene appears to be an archaeological excavation or a natural discovery site.

至 254号線

駐車場・受付

本郷塩輪窯跡

現地説明会場

至 美九里東小

土師神社

TEL:0274-23-5997

## 回 覧

# 笹川沿岸発掘ニュース 2月号



### 今月の発掘 NOW!

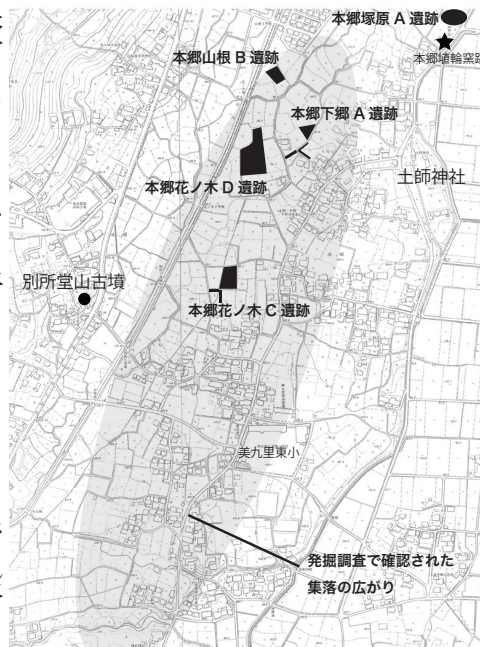
11月下旬から始まった本郷塚原 A 遺跡の調査は中盤を迎え、4 基の古墳は当時の姿が明らかになりつつあります。

K-3 号墳は全長 12m の円墳で、横穴式石室を主体部として採用しています。石室は模様積と呼ばれる藤岡地域で多い特徴的な積み方であることがわかりました。石室内には古墳時代の鎧である小札、ガラス小玉、鉄鏃等が発見されました。

K-4 号墳は全長 18m の横穴式石室を持つ古墳です。横穴式石室は石室の奥壁に高さ 2m の凝灰岩を利用していますが、側壁は自然石を使用しています。隣り合う K-3・4 号墳でも石室の特徴が大きく異なることがわかりました。

K-5 号墳は全長 20m 程度の前方後円墳です。埋葬施設は不明ですが、おそらく横穴式石室であったと考えられ、古墳くびれ部で埴輪列や葺石も確認できました。K-6 号墳は墳丘が削平され、周溝のみ確認できました。周溝内には古墳から崩れ落ちた石や古墳を飾っていた埴輪が大量に見つかっています。

今後の調査では墳丘を断ち割り、墳丘や石室の築造方法を中心に調査を行う予定です。



K-3 号墳 模様積の石室



本郷塚原 A 遺跡の空中写真

## ★ 現地説明会を開催しました ★

「笹川沿岸発掘ニュース 1 月号」でお知らせしました本郷塚原 A 遺跡の現地説明会を、1 月 20 日（土）に開催しました。当日は晴天に恵まれ、100 名近くの方々にご参加いただきました。

見学していただいた古墳はすべて 6 世紀代のもので、今から 1500 年ほど前に作られました。1500 年という長い年月の間に古墳は土に埋もれ、現在では当時の姿を想像するのは難しいと言えます。

発掘調査では、壊されてしまう古墳を調査するため、表面の土を取り除き、石室や葺石の様子など当時の姿を明らかにすることで、みなさんに古墳本来の姿を見ていただきました。

発掘を行なっている本郷地区だけでなく、藤岡市内には沢山の古墳が今でも残っています。古墳を見かけた時には、現地説明会でみた古墳を思い出し、当時の古墳の姿を想像してみてください。



笹川沿岸発掘ニュース 2 月号

平成 30 年 1 月 25 日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)

TEL:0274-23-5997

## An aerial photograph of the archaeological site of Tell Fara. The image shows a large, roughly rectangular area enclosed by a thick, light-colored earthen wall. Inside the wall, there are numerous small, circular and rectangular structures, likely dwellings or storage rooms, arranged in a grid-like pattern. The surrounding area is a mix of dry, brownish soil and some green vegetation. In the bottom left corner, a small blue tarp is visible. The overall scene depicts a well-preserved ancient city layout.

A close-up photograph of a light-colored, curved, shell-like object embedded in a dark, textured, and cracked surface, possibly soil or rock. The object is roughly oval-shaped with a small hole in the center and is partially surrounded by a dark, irregular cavity. The surrounding material is dark brown to black, with numerous fine cracks and a rough, granular texture. The lighting is somewhat uneven, highlighting the smooth surface of the object against the rough background.

集落と小林古墳群の位置関係

# 回 覧

## 笹川沿岸発掘ニュース 最終号



### 発掘調査ダイジェスト

今号で、「笹川沿岸発掘ニュース」は最終号となります。最終号では大きな成果があった、本郷塚原 A 遺跡の古墳について紹介していきましょう。

#### 1. 本郷塚原 A 遺跡の位置

本郷地区には 100 基程度の古墳が群集する小林古墳群が存在しています。発掘調査を行った本郷塚原 A 遺跡は小林古墳群の南端に位置し、遺跡のすぐ隣には古墳に据える埴輪を焼いた窯跡である本郷埴輪窯跡があり、藤岡市の古墳時代を考える上で非常に重要な地域です。

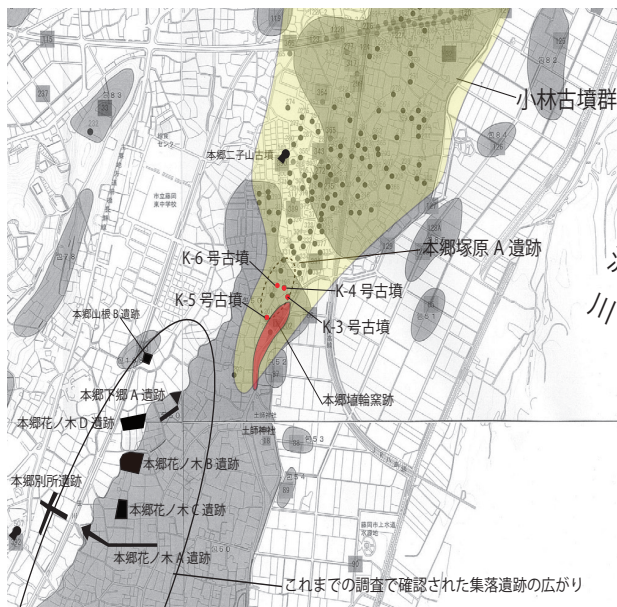
#### 2. 見つかった古墳

今回の調査では、円墳 3 基と前方後円墳 1 基の調査を行い、それぞれ特色ある古墳であることがわかりました。古墳の時期も当初想定していた 6 世紀後半のものだけでなく、5 世紀末から 6 世紀前半という藤岡市内ではほとんど見つからない時期の古墳であることがわかったのは大きな収穫でした。

#### ★ K-3 号古墳・K-4 号古墳★

2 つとも横穴式石室を持つ 6 世紀後半に作られた円墳です。隣ありますが、横穴式石室の形が大きく違っていました。K-3 号古墳は模様積みと呼ばれる大きい石と小さい石を組み合わせたこの地域独特の石室です。一方、K-4 号古墳は自然石乱石積みという大きさが同じくらいの河原石を積み、奥壁に 2m を超える凝灰岩という石を使っています。

隣り合い時期も同じくらいの古墳ですが、石室の形が大きく違い、また埴丘の作り方も異なっていることが明らかとなりました。同じ地域に作られた古



K-3 号古墳の模様積み石室（上）と  
K-4 号古墳の巨大な奥壁（下）

墳といっても、様々なバラエティがあり、葬られた人の階層や特徴を表していると考えられます。

#### ★ K-5・K-6 号古墳★

K-5、K-6 号古墳は K-3・4 号古墳より古い時期に作られた古墳です。特に前方後円墳の K-5 号古墳は出土した埴輪から 5 世紀末から 6 世紀初頭の時期である可能性が高いです。5 世紀末から 6 世紀初頭の古墳は、藤岡市内ではほとんど見つかっておらず貴重な発見となりました。

K-5 号古墳では、調査の進展に伴って大きな発見がありました。それは埴丘下で見つかった「埴輪棺」です。これは文字通り古墳に据えられる埴輪を使った棺で、発掘調査で見つかった確実な例としては、藤岡市で初めての発見です。60cm ほどの普通円筒埴輪を使った小形のもので、成人は葬れないので、子供用の墓か一度葬った遺体を再び埋葬したもの（改葬）であるという説があります。これは K-5 号古墳のメインの埋葬施設ではなく、付随的なもので近親者の墓と言われています。

埴輪棺は土師氏（古墳や埴輪作りに関わっていた集団）の伝承のある地域に作られることが多く、埴輪工人の墓と言われています。本郷埴輪窯跡と隣接する K-5 号古墳で埴輪棺が見つかったことは、この古墳が埴輪工人の墓であったという 1 つの証拠となるかもしれません。

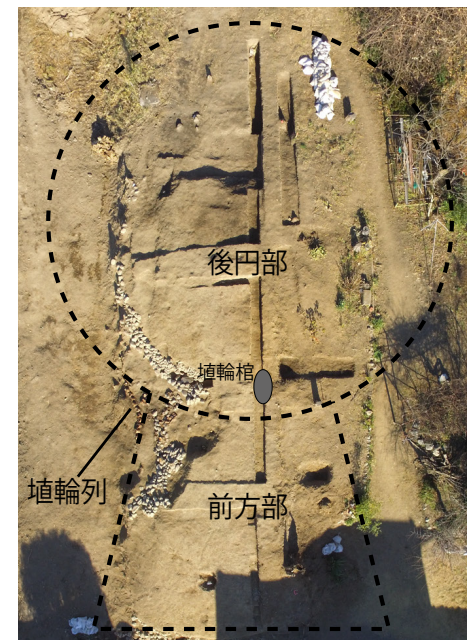
#### ★さいごに★

本郷塚原 A 遺跡では、古墳の下から 4 世紀後半の方形周溝墓が見つかり、古い墓を壊して調査した古墳を作っていることがわかりました。長期間継続して使われた重要な場所であったことが伺えます。

方形周溝墓の調査は次年度に持ち越しになってしまいましたが、今年度の調査では本郷地区の歴史について多くの発見がありました。発掘調査は来年度も継続して行います。その成果はまた何らかの形で皆さんにお伝えしたいと思います。

「笹川沿岸発掘ニュース」はこれで最終号となります。

1 年間ご愛読ありがとうございました。



K-5 号古墳 全景写真



見つかった「埴輪棺」

ほうけいしゅうこうぼ

笹川沿岸発掘ニュース 最終号

平成 30 年 3 月 28 日

発行：藤岡市教育委員会

文化財保護課 埋蔵文化財係

藤岡市白石 1291 - 1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-23-5997